技で魅せる
いしかわの
伝統工芸実演会

番外編

石川県中小企業団体中央会
伝統的工芸品ＰＲ事業
伝統工芸製作実演会
毎週土日祝　11～16

vol.5

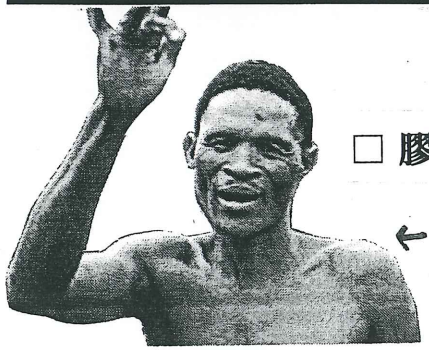
入試には出ないけど、工芸士さんとの会話によく出る！
最頻出！伝統工芸的ミニミニ単語集

□ 柿渋（かきしぶ／名詞・液体）

平安時代より用いられてきた、**日本固有の材料（液体）**。
青渋柿を砕いて水を加え、発酵・濾過した上澄液を
半年間　密閉保存してつくります。主成分のカキタンニンには、
防腐作用があるため、**補強剤・防腐剤・防水剤**として、
木・麻・紙に用いられてきました。また、全国シェア
99％を占める金沢箔を作る際に不可欠な箔打紙は、
手漉き和紙を柿渋・わら・卵などをまぜた
ものに漬け込み、強度を増しています。

♡ 80年代もイケ系する
♡ アイドルグループ
シブがき隊

かもね　かもねよ
50かもね！



□ 膠（にかわ／名詞）

←こちらは
ニカワさん

←こちらが
ニカワ

←こちらは二貫

獣・魚類の皮や骨等を石灰水に浸してから煮て、濃縮し、冷やし固めたもの。
接着材として、洋の東西を問わず、太古の昔から、様々な用途に用いられてきました。伝統
工芸では、木工や焼き物の上絵の下地等に、使用されています。**主成分はゼラチン。**
九谷焼のとある工芸士さん（上絵師さん）曰く、「昔はクジラのニカワを使っていたが、採取が難しくなったので、
近年は海藻のニカワを使っている。でもこれが美容に良いらしくて、化粧品用にまわっているのか、
これも入手困難になってきている」とのことでした。伝統工芸と美容がニカワでつながっているなんて、おもしろいですね。

こちらが柿渋。
やけど・しもやけ、二日酔い予防に。

□ 弁柄（べんがら／オランダ語 Bengala／別名 酸化鉄赤 Fe203）

約18,000年前に描かれたスペイン・アルタミラの洞窟壁画にも見られる、**有史最古の顔料**で、土から採取
します。日本でも古くから根付いており、インドのベンガル地方のものを輸入したため、この赤い顔料は、
『ベンガル→べんがら』と名付けられました。防虫・防腐性があり、経年や日光による褪色がないため、
家屋や神社仏閣のべんがら塗りとして多用されてきました。また、女性の間では、口紅として使用されていたそうです。
伝統工芸では、陶器や漆器に多く使われ、九谷焼の赤絵や漆器で赤も、この、
「べんがら」の色です。日本では、岡山県西部の成羽町吹屋がべんがらの産地として知られています。

こちらは、
ベンガルさん

↑こちらが、べんがら

余談ですが、観光客の方は、ところどころ赤茶くなっている石川県の道路に驚く
そうですが、こちらは、融雪装置で鉄分を多く含む地下水が
散水され、空気に触れて酸化したため。
厄除けのために、べんがらを塗ったわけではありません。
あしからず、あしからず。

ベンガルトラ